

大豆だより

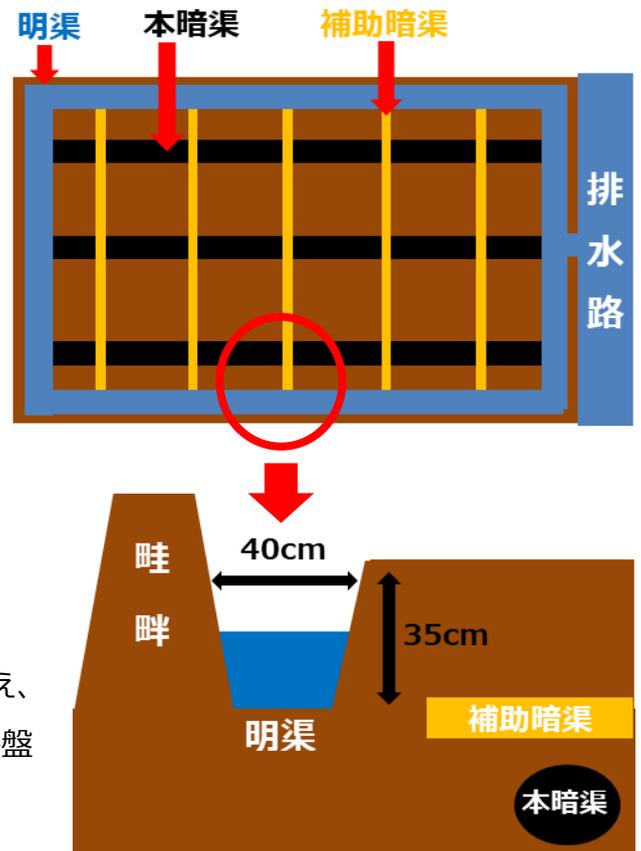
第1号

令和3年5月12日発行
西村山農業技術普及課
TEL：0237-86-8215

【圃場の準備】

1. 排水対策

- ・播種から生育初期にかけて湿害を受けると、生育が抑制され収量が低下します。
→ 湿害回避のため排水対策を徹底しましょう。
- ・降雨の排水は地表からの排水が基本です。
→ 播種前に畦畔に沿って明渠を掘りましょう。
- ・明渠の深さは **30~40 cm** として、確実に落水口につなぎましょう。
- ・排水が極度に悪い圃場では、圃場内にも適宜、明渠を掘りましょう。
- ・水田転換畑は湿害が発生しやすいため、本暗渠に加え、補助暗渠（弾丸暗渠、靱殻暗渠、サブソイラによる耕盤破碎等）を積極的に組み合わせましょう!!



2. 土づくりと施肥

- ・大豆は集積窒素の70~80%を子実としてほ場外へ持ち出すため、連作年数が経過するほど、有機物や相当量の窒素供給（根粒菌による窒素固定や窒素施肥）が必要となります。
- ・牛ふん堆肥 2~3t/10a や 発酵鶏ふん 75~100kg/10a を施用して、地力を維持しましょう!!
- ・根粒菌の活性と大豆の生育に最適な土壌 pH は **6.0~6.5** です。
→ 土壌 pH が 6.0 を下回る圃場は、**苦土石灰 100kg/10a** や **炭カル 120kg/10a** を施用して、酸度矯正を行きましょう!!
- ・基肥の目安は、成分量で **窒素 2.5kg/10a**、**リン酸 7.5kg/10a**、**カリ 10kg/10a** です。
- ・多量に窒素肥料を施用すると、根粒菌の着生と窒素固定量が減少するので注意しましょう。
- ・生育が旺盛で蔓化するような圃場では、基肥窒素肥料の施用を控えましょう。
※この場合、リン酸やカリが不足しないように、ようりんや PK 化成を施用しましょう。

【播種】

1. 種子の準備

・種子に薬剤処理を行って、病害虫の発生を予防します。ネキリムシ類が例年多く発生する圃場では、必ず行いましょう。

2. 播種量

・播種量の目安は、里のほほえみ、秘伝 5kg/10a、シュウリュウ、リュウホウ 4~5kg/10a です。

※里のほほえみや秘伝等の大粒品種は、播種粒数不足にならないように注意。

3. 播種適期

・播種時期が遅れるほど生育期間が短くなり、節数、分枝数や着莢数が減少します。

→ 収量・品質の安定化のため、遅れずに播種しましょう!!

・播種適期は、5月20日~6月10日です。晩限は6月20日!!

※6月20日より遅く播種する場合は、生育量不足を補うために2割ほど播種量を増やしましょう。

・出芽安定のため、碎土率70%以上(直径1cm以下の土塊の割合)となるように耕うんしましょう。

・最適な播種深度は3cm程度です。

※これより浅いと水分不足、これより深いと酸素や温度不足となり、出芽が遅れるので注意。

4. 雑草防除

【帰化アサガオ類】

・近年、マルバルコウ、マメアサガオ、アメリカアサガオ、マルバアサガオなどの帰化アサガオ類の発生が問題となっています。

・4月中旬ごろから10月上旬まで、だらだらと発生し、8月中に出芽したものは結実します。

・**つる化**すると防除は困難になり、圃場にまん延すると収量が大きく減少します。



マルバルコウ



マメアサガオ



アメリカアサガオ



マルバアサガオ

・大豆との初期競合を防ぐために、播種後、早めに土壤処理除草剤を散布しましょう。

※土壤が乾燥している場合や碎土率が低い場合に処理すると、効果が劣るので注意。

・畦畔などの圃場周辺で発生を確認したら、ただちに抜き取り、圃場への侵入を防ぎましょう!!

STOP 農作業事故！ 転落・転倒事故を防止しましょう！
農薬は、ラベルをよく読んで適正に使用しましょう！